

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価 (3月23日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>文理融合の教育課程を編成し、全ての教科で生徒の総合知を醸成する探究的かつ教科横断的な学びを充実させる。</li> <li>課題研究活動や体験講座を中心に、科学的思考力や多面的多角的な思考力、優れた洞察力・判断力や表現力を育成する。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>文系理系にとられない総合知を身に付けるために、教科横断的な内容を取り入れた組織的な授業改善を目指す。</li> <li>SSH 指定校としての指導体制を構築し、「理数探究基礎」と「K-ARP」における課題研究活動を発展させる指導方法を組織的に研究するとともに、科学分野の実践的・体験的な講座等を通じて科学技術人材の育成を図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>教員間の相互の学び合いを通して授業力を高めるとともに、授業改善策の検討を行い、授業改善に向けた工夫を共有する機会を設定する。 ・各授業にて文理融合的な課題や先端分野の内容扱うSSHトピックを導入する。</li> <li>外部機関と連携した取組を進め、「理数探究基礎」の内容を拡充させるとともに、課題研究において指導法・評価法について研究し共有を図る。 ・学年単位の理数教育事業に加え、希望者対象の科学的体験や探究活動を行うカマクラボを実施する。 ・海外交流事業を継続・発展させる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>教員間で他者の授業を見学する期間を設け、期間中に少なくとも1回は授業を見学するとともに、全職員で改善に向けた工夫を共有する場を設定できたか。 ・SSHトピックを各授業で扱うことができたか。</li> <li>各事業において、外部と連携した取組を効果的に実施できたか。 ・各事業において参加生徒への指導法・評価法を開発・検討することができたか。 ・海外交流事業を有意義な取組として実行し、その成果を共有できたか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>第1回授業評価アンケートをもとに、教科会議を実施し、授業改善案として全教職員で共有した。 ・10月から12月にかけて教科に関わらず授業を見学する期間を設けた。 ・SSHトピックは、また数人の実施報告のみとなっているが、一人でも何人も扱っている教員もいる。</li> <li>1学年の理数探究基礎では、広町緑地と連携し、フィールドワークを取り入れた新たな教科開発や授業展開を行うことができた。また、2学年の課題研究では、慶應SFCの大学院生にメンターとして入ってもらったり、JAMSTAC 本部に赴き実験や研究者に対するプレゼンをしたり、企業から実験のための模型を借りるなど、多くの外部機関との連携を行い、研究への助言を得ることができた。 ・夏期休業中や休日を中心にカマクラボやサイエンストリップを実施することができた。 ・年度末のNZへの研修旅行に向け、参加生徒向けに事前研修を実施した。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>より正確なデータを得るために、生徒へ授業評価アンケート回答の協力を呼びかけ続ける。また、第2回授業評価アンケート結果での年度当初目標の達成状況を見取り、来年度の計画に生かす。 ・今年度のSSHトピックの内容・アイデアを職員で共有し、来年度の実施を促進する。</li> <li>広町緑地との連携授業は、実施時期を再考し、より充実したフィールドワークになるようにしたい。課題研究は、研究時間の確保を図るため、授業計画の見直しを進めるとともに、外部機関との連携を継続する。 ・カマクラボやサイエンストリップを充実させる。 ・科学研究会の活動をより拡充させるとともに、他の生徒等への広報周知活動を充実させ、生徒数の増員と研究活動の向上に努めたい。</li> </ol>	<p>○2年生のK-ARPを中心とした課題研究活動について、生徒の研究テーマは大変魅力的である。ポスターの形式などよくできている</p> <p>○1年生の理数探究基礎では、年間指導計画に基づき、テーマ設定までの指導を丁寧に行っている。研修等によりゼミ担当職員のスキルアップも期待できる。</p> <p>○サイエンスツアー、サイエンストリップは良い取り組みである。評価方法が研究課題である。</p> <p>○生徒による授業アンケートは、前年との比較ができる資料を提示してほしい。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>授業評価アンケート結果をもとに各教科での工夫や取組をまとめ分析し、授業改善案として全教職員で共有した。また、教員間で教科に関係なく他者の授業を少なくとも1回は見学する機会を設けた。 ・SSHトピックは実施できたが、実施数が少数であり、教員の意識向上と全校体制での推進が必要である。</li> <li>外部機関と連携し、1学年の理数探究基礎、2学年の課題研究活動について、計画から、授業実践まで充実したものとなった。 ・課題研究においては、評価法を試行した段階であり、生徒の研究内容を図るよりよい評価法を作成していきたい。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>次年度は、授業評価アンケートの結果を継続して見取るために第1、2回のアンケート結果だけでなく前年との比較もできるような資料を提示し、全教職員で授業改善に努める。 ・職員研修や授業改善研修において、職員の文理融合への意識を高めるとともに、授業において生徒の現在の科学分野に関する興味関心を高めるよう工夫する。</li> <li>2学年の課題研究、3学年の総合的な探究の時間においてルーブリック評価の内容を再検討し、より生徒の活動が向上できる評価法を作成する。</li> </ol>
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者を思いやることのできる人間性、主体的な態度を育成する。</li> <li>学校行事、部活動と学習のバランスの取れた学校生活の支援体制を充実させる。</li> <li>人権を尊重しつつ、自らの知と徳を培い生きる力をはぐくむ。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校行事に対して、生徒が主体性を持ち企画立案・実施・検証することによって実践性・自主性・協調性を養い自己肯定感を高めることができるよう支援する。</li> <li>一人ひとりの生命と人権が尊重されるべく、自己理解を深めるとともに、他者への共感に基づいた倫理観と判断力を育成する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>生徒会執行部の活動、学校行事の運営、部活動における継続的な支援を行う。</li> <li>現行の教育相談体制により生徒の情報を職員全体で共有し、将来に向けての指導・支援を充実させる。 ・継続的な注意喚起や指導により、SNS関連のトラブルの未然防止に務め、被害の拡大を防ぐ</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>事後アンケートにおいて、生徒の主体性や創造性に関して、肯定的に回答した生徒が3分の2を超えたか。 ・行事の計画・実施・振り返りを通して、計画的かつ継続的なサポートをすることができたか。</li> <li>普段の生徒の様子だけでなく、かながわ子どもサポートドック等のデータにより生徒全体の傾向を読み取り、個に応じた支援ができたか。 ・SNSでのトラブルの発生時に当事者への迅速かつ適切な対応を実践したか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>生徒会執行部の活動、学校行事の運営、部活動において、継続的に支援ができたことから、事後アンケートでは全ての行事において「生徒が主体的に参加できた」とする回答が9割以上を示した。また、来年度の各種行事の実施に向けて引き続き等々を確実に行った。</li> <li>学校生活アンケートとしてのかながわ子どもサポートドックへの認識が生徒および担任を中心とする教員間にも浸透した。その結果、支援を必要とする生徒の把握とプッシュ型面談等の多くの手立てにつながった。 ・生徒のSNS利用や江ノ電乗車について、生徒が自覚していないか周りの方から指摘されるマナー違反が複数件見られた。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>生徒が学校行事において主体的に取り組み、運営することができるよう来年度に向けた継続的な指導をする。</li> <li>支援を必要とする生徒たちの手立てをSC・SSWの協力を併せ、学年団等チームで対応できるよう教育相談体制の見直しを図る。 ・スマホ携帯教室(1年)や江ノ電乗車指導(春・秋)のみならず、1年を通じて生徒同士だけでなく社会全体での他者への共感・思いやりを持って行動する意識を高める機会を増やす。</li> </ol>	<p>○生徒が、学校行事に熱心に意欲的に取り組んでおり行事を通しての学びも多い。これからは県立高校として魅力を発揮してほしい。</p> <p>○かながわ子どもサポートドック等を活用し、生徒を丁寧に支援している。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>すべての学校行事に関する事後アンケート結果において、9割以上の生徒が実施内容について肯定的な回答であり、主体性や自己肯定感を高めることができた。</li> <li>かながわ子どもサポートドックを活用し、支援を必要とする生徒を把握し、プッシュ型面談等の多くの手立てにつなげた。 ・生徒のSNS利用や江ノ電乗車について、生徒が自覚していないが、周囲からマナー違反を指摘され、学校へ意見が複数寄せられた。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>生徒が主体的かつ創造的に学校行事に取り組み運営できるように、生徒会執行部および全行事における実行委員への指導を組織的かつ計画的に行っていく。</li> <li>支援を必要とする生徒に組織的に対応するよう、教育相談体制の見直しを図る。 ・スマホ携帯教室(1年)や江ノ電乗車指導(春・秋)を引き続き行う。また、1年間を通して生徒が他者への共感・思いやりを持って行動する意識を高める機会を増やす。</li> </ol>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価(3月23日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人ひとりのキャリア形成に則した支援体制を整備する。</li> <li>難関国公立大学、難関私立大学への合格者数を増加させる。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>キャリア形成に向け大学での学びや職業について生徒の理解が深まるよう支援する。</li> <li>生徒の成長過程を支援するとともに、とりわけ難関大学を第一志望校に掲げた生徒が十全に力を発揮できるようにする進路指導を行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>大学の研究について生徒に紹介する機会を設ける。 <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度も卒業生のうち社会人として活躍している方のお話を『学習・キャリアワークブック』に掲載できたか。</li> </ul> </li> <li>「第一志望を貫く」指導を組織的に行い、保護者および生徒に説明会を実施し、難関大学の情報を周知する。また、職員会議や学年会でも複数回説明方針を徹底する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>大学の研究内容について紹介できたか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>社会人の原稿を『学習・キャリアワークブック』に掲載できたか。</li> </ul> </li> <li>多様な情報を指導に生かすことで、スーパーグローバル大学(トップ型)への現役進学率が前年を超えたか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>大学説明会やオープンキャンパス新聞などで大学の特長や研究について生徒に周知する機会を設けた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度発行の『学習・キャリアワークブック』にも本校卒業生に執筆を依頼し掲載した。</li> </ul> </li> <li>『第一志望宣言』を今年12月に実施し、生徒、担任、保護者が志望理由や意志を共有することができた。入試研究協議会や地元大学との連絡協議会に指導担当者に参加し、難関大学の入試方式の傾向や課題点、新規情報について緊密に意見交換した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>入試情報を随時職員全体と共有し「第一志望を貫く指導」を継続した。</li> </ul> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>オープンキャンパスは個人での参加、大学説明会は参加大学が限定されるため生徒全体のニーズに対応できるよう招請対象の大学を検討し、実施方法についても検討する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業生による協力を今後も仰ぐため、同窓会と連携しつつ協力いただける方を確保する。</li> </ul> </li> <li>難関大学を目指し努力を重ねる生徒が増加していることから、今後も指導を継続したい。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒自身の目的と、大学内容のマッチングさせるため、第1志望校への進路を明確にさせた後、遠足で訪問することもあり、オープンキャンパスを活用するなど、複数の機会を設定し丁寧に指導している。</li> <li>○キャリア教育については、同窓会からも人材紹介協力したい。創立100周年の機会に連携できるとよい。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>大学説明会および『学習・キャリアワークブック』の内容を通し、大学での研究内容やキャリア形成についても一定の内容を示すことができた。各大学が企画しているオープンキャンパスの日程が本校行事予定と合わない場合の情報提供の機会を十分確保したい。</li> <li>4年ぶりに東京大学合格者も輩出し、国公立大学合格人数は47名となった。今後も継続および増加を目指したい。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>歩こう会などの行事も活用し、大学選びに関する情報収集の機会を増やし充実させる。</li> <li>難関国公立大説明会を実施し、情報提供に努める。</li> </ol>
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連する諸機関、団体との連携を進め、協働に取り組むことをとおして、地域に信頼される学校づくりを行う。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>PTAや藤沢支援学校鎌倉分教室との連携を深め、学校行事等での交流を通して、相互の教育活動が連続的で互恵的となるような教育活動を展開する。</li> <li>学校外の機関・団体等との連携し、教育活動と生徒の学習成果の情報発信を推進する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>日常的に、PTAや分教室と情報の交換や共有を行い、本校生徒との交流・理解を深め互いに良い関係が築けるような機会を推進する。</li> <li>学校外の機関・団体を学校の教育活動に生かしたり、生徒が地域の機関・団体へ参加や協力したりする機会の設定を推進する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>PTA活動との連携を深め、生徒が主体的に地域貢献活動に取り組む機会が昨年より増えたか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>分教室との交流機会が昨年度より増えたか。</li> </ul> </li> <li>生徒が主体的に地域の機関・団体へ参加協力したり、生徒の学習成果を発表する機会を設けたりすることができたか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校行事においてPTAと連携し、スポーツ大会でのドリンクサービスや鎌高祭での巡回を行うだけでなく、広報誌の資料撮影等、柔軟かつ互恵的な関係を構築した。また、業務の見直し等を行い、業務の効率化を行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>藤沢支援学校鎌倉分教室とは、対面式、鎌高祭、合唱コンクールにおいて交流を深めた。また、支援学校生徒の興味を深める活動にも協力した。</li> <li>行事の予定計画を中心に、PTAや分教室の職員と情報交換した。</li> </ul> </li> <li>部活動において、地域の施設や行事で吹奏楽部や弦楽部の演奏を行い、地域に貢献することができた。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>PTAと分教室の職員との情報交換を行い連携を深め、成果の共有ができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>藤沢支援学校と生徒同士の交流の機会が来年度以降も維持できるようにする。</li> <li>生徒が地域に貢献できるよう、取り組む機会をつくる。</li> </ul> </li> <li>来年度の行事予定を考慮し、生徒が主体的に地域や団体と協力したり交流したりする機会をつくる。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○PTA 広報誌作成にあたり、部活動の写真撮影など、職員にも生徒にも協力してもらっている。PTA活動を、生徒に理解してもらえよう発信していきたい。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校行事全般においてPTA及び藤沢支援学校分教室と連携を深めることができた。分教室との交流については、対面式、鎌高祭、合唱コンクールでの交流によって成果の共有ができた。</li> <li>吹奏楽部や弦楽部が、地域の施設で演奏を行い、部活動として地域に貢献することができた。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>継続的にPTAおよび藤沢支援学校分教室の生徒との連携を深める。また、PTAと生徒の交流の機会の創出を検討していく。</li> <li>学校ホームページの活用や学校説明会の開催により、部活動等における教育活動の成果を発信し、地域と学校の双方にとって有益な関係を構築するとともに、相互理解の深化を図る。</li> </ol>
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内組織をより活性化し、全職員の情報共有や運営参画を進める。</li> <li>施設・設備の維持や管理を適切に行い、生徒の安全と教育成果の拡充を図る。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>職場の目標や課題を全職員で共有し、個々の役割を理解し、主体的・協働的な業務参画と業務の効率化を推進する。</li> <li>生徒・職員が災害時に適切な判断と行動ができる、災害に対する意識の高い学校づくりの取組を推進する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>ICTの活用により意見集約や情報共有等を通して、業務の効率化を推進するとともに、主体的・協働的な業務参画を進める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>職員の意識啓発を図り、事故防止に取り組む。</li> </ul> </li> <li>地域の避難所に指定されていることを踏まえた防災計画の策定と、実態に即した防災計画を行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>企画会議を中心に各グループ業務の見直しを行い、業務の効率化と活性化を図ることができたか。</li> <li>生徒・職員が、地域の避難所として指定されていることを理解し、具体的な災害等に対する意識を高める訓練等を実施できたか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>チームス、グーグルクラスルーム、マチコミの利活用をより進め、会議資料や配付資料のデジタル化を進め、業務の効率化を実現した。各グループから業務の精選について、聞き取りをした。</li> <li>6月にシェイクアウトと防災訓練を行うとともに、生徒・職員双方による防災下校班の確認を行った。8月に災害体験のVR視聴とDIG研修を合わせて行い災害に対する意識を高めた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>施設老朽化に伴い、近隣の方にも影響した事例に対しては必要な対策を行った。</li> </ul> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>グループ業務の精選については重なる業務、実施していない業務など削減する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ICTの利活用のさらなる推進とともに、活用のルールについても整備をしていく。</li> </ul> </li> <li>来年度も引き続き災害の具体的な場面を設定した訓練を行うとともに、外部からの避難者にも対応できるような防災訓練の実施と発災時の円滑な運営体制の見直し等を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>今後も施設老朽化に対して関係各所と連携を図り対応を継続する。</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○正門工事、防球ネットの支柱修理など、安全対策を講じている。</li> <li>○地域の避難所として、学校をどう活用できるのか、防災はとても大切であるが、減災の視点からマニュアルの見直しや避難訓練を考えることも重要である。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>会議資料や配付資料のデジタル化については、周知と習慣化により、ペーパーレス化を促進することができた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ業務が重なっていた委員会を廃止する等、業務の精選を行った。</li> </ul> </li> <li>6月にシェイクアウトと防災訓練、8月に災害体験のVR視聴とDIG研修を行い災害に対する意識を高めた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>施設老朽化に伴い、近隣の方にも影響した事例(正門工事や防球ネット工事等)に対して必要な対策を行った。</li> </ul> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>ICTの利活用について、次年度よりすぐ導入されるので、積極的に活用する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ間、WG間で業務の重なりを共有し、精選を図る。</li> </ul> </li> <li>引き続き災害の具体的な場面を設定した訓練を行い、外部からの避難者を想定し「減災」の視点からも、防災訓練と円滑な運営体制の見直しを行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>今後も施設老朽化に対して関係各所と連携を図り対応を継続する。</li> </ul> </li> </ol>